

各レジメンの催吐リスク別の制吐療法について

当院での化学療法レジメンに対する制吐療法（催吐リスク別）

催吐リスク	高度	中等度※1	中等度+ α (オプショ)※2	軽度
Day1	アロリス注 235mg ^{※3} 1V パロノセトロン注バッグ 0.75mg 1袋 デキサート注 6.6mg 1.5V	グラニセトロン注バッグ 3mg 1袋 デキサート注 6.6mg 1.5V	アロリス注 235mg 1V グラニセトロン注バッグ 3mg 1袋 デキサート注 6.6mg 1V	デキサート注 6.6mg 1V
Day2	デカドロン錠 0.5mg 16錠	デカドロン錠 0.5mg 16錠		
Day3	デカドロン錠 0.5mg 16錠	デカドロン錠 0.5mg 16錠		
Day4	デカドロン錠 0.5mg 16錠	*パロノセトロン注バッグの場合は、day2,3のデカドロン錠は不要		

※1 中等度の 5-HT3 拮抗薬の選択

シスプラチン 50mg/m²未満は、パロノセトロン注バッグとする。
 イリノテカン 150mg/m²未満は、パロノセトロン注バッグとする。
 連日投与するレジメンの場合は、パロノセトロン注バッグとする。
 注意：パロノセトロン注バッグの場合は、day2,3 のデカドロン錠は不要

※2 中等度+ α (オプショ)の対象は、オキサリプラチン含有、カルボプラチン AUC4 以上、イリノテカン 150mg/m²以上のレジメンとする。

中等度+ α (オプショ)の 5-HT3 拮抗薬の選択

オキサリプラチン、カルボプラチンの場合は、グラニセトロン注バッグとする。
 イリノテカンの 150mg/m²以上は、パロノセトロン注バッグとする。

※3 アプレピタントカプセル（内服）の選択

肺癌の CDDP を使用したショートハイドレーションレジメンは、アプレピタントカプセルとする。